

# Economic Indicators

発表日: 2021年9月15日(水)

## 第3次産業活動指数(2021年7月)

～2カ月ぶりのマイナスへ。先行きも弱い動きが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

前月比	2020						2021						
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
第3次産業活動指数	0.3	0.8	2.0	0.8	0.0	▲0.4	▲1.0	▲0.3	2.4	▲0.7	▲3.0	2.2	▲0.6
電気・ガス・熱供給・水道業	▲6.7	11.0	0.0	▲2.4	0.2	2.9	2.2	▲5.2	0.1	0.5	▲1.0	2.2	▲2.0
情報通信業	1.6	▲2.2	▲0.1	1.5	0.3	▲0.7	2.4	▲2.9	1.4	6.9	▲4.5	▲2.2	▲0.2
運輸業、郵便業	1.5	0.1	3.6	▲0.2	0.2	▲0.7	▲1.3	0.9	4.3	▲2.8	▲4.5	6.7	▲2.4
卸売業	2.7	0.5	2.8	2.8	▲1.9	1.6	0.7	▲2.9	2.6	▲0.5	▲4.3	2.2	0.8
金融業、保険業	▲1.2	0.7	0.6	▲0.2	2.0	▲1.6	3.9	▲3.3	2.6	1.6	▲2.6	▲0.9	0.4
物品賃貸業	▲0.7	▲0.3	0.1	0.3	0.3	▲0.4	▲0.7	▲0.3	1.5	0.0	▲1.0	1.3	▲0.2
事業者向け関連サービス	▲0.4	1.3	1.0	▲0.2	0.5	0.0	▲0.9	▲1.7	3.3	▲1.9	0.0	2.6	▲1.3
小売業	▲4.7	2.8	1.2	0.6	▲0.3	0.5	▲3.0	2.9	0.9	▲5.3	▲0.7	3.9	▲2.5
不動産業	0.0	3.9	▲2.7	0.6	▲0.2	▲1.7	1.7	▲1.0	1.0	▲1.1	1.1	▲1.4	▲1.5
医療、福祉	1.7	0.0	2.4	0.7	▲1.5	1.7	▲3.0	0.7	4.1	▲1.0	▲3.0	3.0	▲2.5
生活娯楽関連サービス	6.5	▲3.3	10.9	3.0	2.0	▲5.6	▲11.3	7.9	2.6	▲2.6	▲9.3	6.7	5.5

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

### ○ 第3次産業活動指数は2カ月ぶりマイナス

7月の第3次産業活動指数は、前月比▲0.6%（コンセンサス：同0.0%、レンジ：同▲1.1%～+1.7%）と2カ月ぶりにマイナスに転じ、コンセンサスを下回る結果となった。7月は下旬に感染者数が再拡大していたことで需要が下押しされ、先月順調であった医療や小売業を中心に低下する結果となった。もっとも、緊急事態宣言の対象地域が限られていたことに加え、オリンピック開催等により生活娯楽関連サービスの一部業種が上向いたことで、落ち込みは限定的となった。

内訳をみると、主要11業種のうち8業種で指数が低下した。マイナス寄与の大きい業種は次の通り。医療・福祉が前月比▲2.5%（寄与度：▲0.34%pt）となった。先月の高い伸びからの反動に加え、7月下旬の感染者数拡大を受けた受診控え等による低下と考えられる。小売業は、前月比▲2.5%（寄与度：▲0.30%pt）となった。感染再拡大によって需要が下押しされたことに加え、先月は季節商品が好調だったことから大きく上振れていたが、その反動により織物・衣服・身の回り品などが低下した。また、機械器具や自動車等の耐久財関連も低下した。運輸業・郵便業は、前月比▲2.4%（寄与度：▲0.22%pt）となった。製造業関連取引が減少したこと等により道路貨物運送業等が低下した。

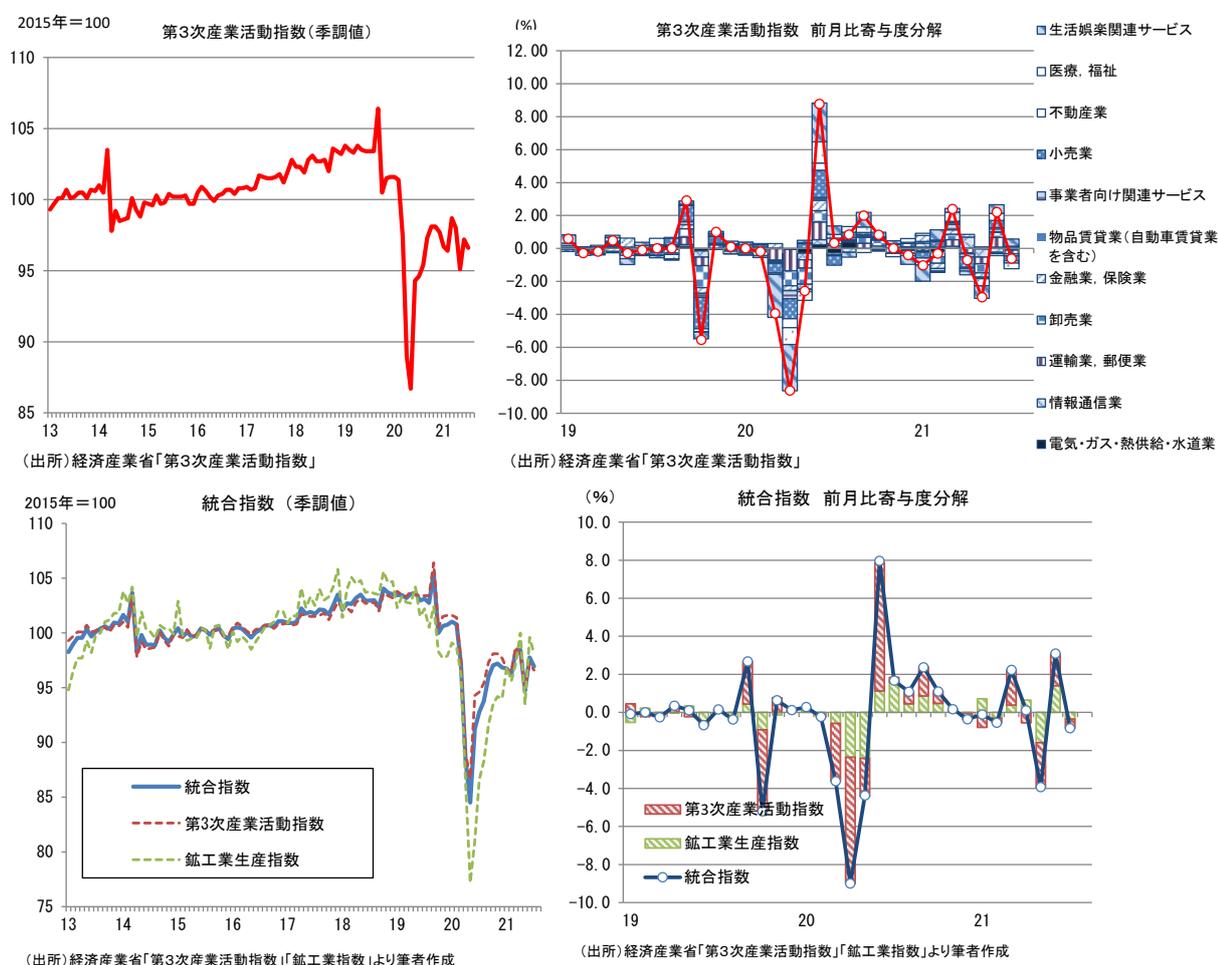
一方で、生活娯楽関連サービスは+5.5%（寄与度：+0.45%pt）と、2カ月連続での大幅上昇となった。東京オリンピックの開催に伴い、五輪関係者等の訪日外客が増加したことで、宿泊関連や外食関連で上昇した。

## ○ 第3次産業の先行きは厳しく、7-9月期の停滞感が強まる

国内全産業の生産動向を捉える指数として、経済産業省の全産業活動指数があったが、2020年7月分をもって公表終了となった。もっとも、鉱工業生産指数と第3次産業活動指数を統合することで全産業活動指数の類似指数が作成可能である（以下、統合指数<sup>1</sup>）。

7月の統合指数をみると、前月比▲0.8%となった。第3次産業活動指数が同▲0.6%、鉱工業生産指数が同▲1.5%とそれぞれ低下したことにより、全産業でもマイナスに転じた。

鉱工業生産指数は、世界的な半導体不足による自動車生産の停滞が続き、7月は2カ月ぶりに前月比マイナスとなった。もっとも、生産用機械や電子部品・デバイス等は上昇する等、全体としては堅調さを維持している。その一方で、第3次産業は、21年1-3月期に前期比▲0.7%、4-6月期に同▲0.5%の減少となった後、7月も前月比▲0.6%と弱い動きが続いている。8月以降は緊急事態宣言の対象地域が拡大された上、9月末まで継続が決定していることから、さらなる低迷が見込まれる。第3次産業の7-9月期は、3期連続のマイナスとなる可能性が高そうだ。鉱工業が堅調さを維持する一方で、第3次産業が足を引っ張り、全産業では足踏み状態が続くだろう。



<sup>1</sup> 統合指数は、鉱工業生産指数と第3次産業活動指数を、2015年の産業連関表の部門別粗付加価値額構成比でウェイト付けし、加重平均することで作成。（ウェイト：鉱工業生産指数＝22.96、第3次産業活動指数＝77.04）

参考：経産省HP [https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto\\_kako/20200923hitokoto.html](https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20200923hitokoto.html)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。